

図書館便り

IWATA KITA HIGH SCHOOL

平成30年1月30日 発行



私の「昭和文学全集」

教頭 高井 恵 実

私の書棚には、「昭和文学全集」全35巻（小学館）が並んでいます。ハードカバーのケース付きの立派なもの。確か教員になってすぐの頃に購入しました。定期的に出版される度に本屋さんが届けてくれたものでした。ずっしりとしたその本の重さに不思議なときめきを感じました。

子どもの頃、自宅の書棚には父母が集めた様々な本がありました。「日本古典文学全集」、「ロシア文学全集」、「クローニン全集」等々並んでおり書棚の前に行つてはワクワクしながら開いたものです。今となつては、内容は空ろですがクローニンの「城砦」、医療の矛盾を題材にした小説で医療系の進路を目指していた私にとっては衝撃的でした。そんな思い出があったためか勢いに乗って手を出してしまつた「全集」ものなのです。

本を読むことは、旅行することに似ています。人は様々なカタチでいろんな思いを持って旅に出ます。それは、気分転換だったり、情報収集だったり、

時には、何かを探すために、旅に出ることもあります。旅先で息をのむような風景に出会ったとき、「この風景の意味は何だろうか？」なんて問うことはしません。本を読むのもいっしょです。言葉で表している風景が、目もくらむような絶景だったり、足もすくむような場だったり、それを味わえばいいのです。旅することそれ自体を楽しむような、旅先での偶然の出会い、それが自宅の本棚の前の空間でした。

本を読むという行為はそれだけにどまらず、視覚的に映像を頭の中に想起するとか、過去の自分の体験と照らし合わせて対比して考えるとか、自分で得られた情報から更に自分で自分の考えを構築するというプロセスがはいつてくるので、人間の持つている創造的な能力がフルにいかされることになりまふ。ですから同じ本を読んでも自分の中からどの位引き出せるかというところがそれぞれ異なるのです。

いつだったかNHKのある番組で「広がる読書ゼロ」という特集を組ん

でいました。その中で示されたデータがあります。イギリスのある大学の研究によると、心拍数などのデータから読書には、音楽視聴・コピータイム・テレビゲーム・散歩などよりも大きいストレス解消効果が現れたそうです。また、静かなところで読書を行えば、わずか6分間で60%以上のストレス解消効果を得られるとのこと。ただし、本の内容に没頭しないと最大限の効果は得られないようです。その効果に期待したいものです。

読書の目的は情報を得ることだけではありません。文学のように私たちの心を豊かにする本もあります。前述した「昭和文学全集」、白状するとまだ、一冊も読んでいません。それぞれが重く、携帯して読める代物でないため、ずっと先送りになつたままです。第1巻には谷崎潤一郎、永井荷風、芥川龍之介、佐藤春夫のいくつかの作品が。いつかゆつくりと文学をひも解く時間をつくりたいと考えています。



2017 読書感想文コンクール 入賞者



● 県読書感想文コンクールへの応募者 ●

HR	生徒名	題名	書名	著者名
11	大石 梨緒	大切なこと	『星の王子さま』	サン＝テグジュペリ
12	倉島 由菜	好きでやりたいことを成し遂げるための第一歩	『風が強く吹いている』	三浦 しをん
22	松井 菜々花	重なる自分	『人間失格』	太宰 治
23	佐藤 ひより	また逢う日まで	『ツナグ』	辻村 深月
25	佐藤 あい	人間不資格	『人間失格』	太宰 治

● 校内入賞者 ●

13HR 内山 里歩	14HR 村松ほのか	15HR 鈴木 百花
16HR 岡田 愛夏	17HR 鈴木 華	21HR 本多 彩乃
24HR 花園 晶帆	26HR 大城 黎音	27HR 高木 夕菜



人気作家 トップ10

4月～12月で
最も多く読まれた作家たちです！

第1位	吉本ばなな	151回
第2位	山田 詠美	66回
第3位	東野 圭吾	61回
第4位	太宰 治	56回
第4位	山田 悠介	56回
第6位	湊 かなえ	37回
第7位	米澤 穂信	26回
第8位	有川 浩	24回
第9位	あさのあつこ	20回
第9位	池井戸 潤	20回
第9位	角田 光世	20回

2017 図書室ランキング

4月～12月で
最も本を多く借りた人たちです！

第1位	25HR 佐藤 あい	35冊
第2位	23HR 佐々木 光	34冊
第3位	24HR 森 祐樹	30冊
第4位	23HR 山中 香奈	25冊
第5位	34HR 竹内あかり	21冊
第6位	23HR 児玉 朝香	19冊
第7位	33HR 八木 裕隼	18冊
第8位	26HR 市川 桃子	17冊
第9位	25HR 三上 史帆	15冊
第10位	25HR 大場 祐輔	13冊
第10位	26HR 佐野 朝霞	13冊

多読者 トップ10

人気本

『空の境界』 奈須きのこ著／『夜行』 森見 登美彦著／『はたらく細胞』 清水茜著／『ツナグ』 辻村深月著／『君の脾臓を食べたい』 住野よる著／『氷菓』 米澤穂信著

答えは自分の中に

今年度の四月、「言寺」という方のtwitter記事が話題になった。「なぜ読書をしなければいけないか？」という質問に対する、投稿者のお母様の答えが素敵なのだ。(pic.twitter.com/xzTxIdfs5yより一部引用する。)

何故読書をしなければいけないか…それは読んだ人にしか分からない。本を嫌いな人に『本を読むのが如何に素晴らしいか』を説いたところで、その解説自体が苦痛でしょ。でもこれだけは言える…読書家はみなそれぞれに答えをもっている。なぜ人類の多くが『本を読め』というのか。その答えが知りたいなら本を読みなさい。あなたの答えは誰も持っていない。

確かに、興味のないことを勧められても苦痛だ。しかし、「読まず嫌い」は、本当にもったいない。読書論と言えるほどではないが、私は登場人物に共感する中で悩みが救われ、美しく豊かでカッコいい文章に酔いしれ、知らない世界に出会う喜びを読書で感じることができた。みなさんにとっての読書はどんなものだろうか？ぜひその答えを探してほしいと思う。(司書教諭より)

重なる自分

『人間失格』を読んで

22 HR 松井 菜々花

読み終えたあと、不思議と嫌な気分になった。今まで本を読んで、こんなにも気分が悪くなったことはない。『ころ』を読み終えた後も、『羅生門』を読み終えた後も、こんなに嫌な気分にはならなかった。私が『人間失格』をこんなに嫌う理由はいったい何なのだろうか、何度も読み返しながら自分に尋ねてみた。

そしてわたしを不快にさせたのは、主人公大庭葉蔵との類似点なのだと思いが付いた。小学校に入学するくらいまでだったと思うが、わたしは大人たちが怖かった。虐待を受けたことなど一度もないのだが、何かにおびえ、いつも懸命に大人たちのご機嫌を取っていた覚えがある。

特に、自分の行動に対して大人たちがどのような反応を示すのかを常に気にしていた。こうすれば喜ぶのか、じゃあ、今度からはそうしてみようなど、絶えず周りの大人を観察していた。大人に喜ばれる子どもを演じるために、試行錯誤を繰り返していた。そして、

かった。「いいよ。」と言ってから、後悔ばかりしていた。

それは小学校二年生の時のことだった。友人であるAさんの誕生日会に招待された。もちろんわたしは「行くよ。」と、快く答えた。程なくBさんからも誕生日会に招待され、行くことになった。同じ日の同じ時間だった。先にAさんから招待を受けたことを伝え、断ればいいのだが、それができない。「行くよ。ありがとう。」

と答えてしまった。いわゆるダブルブッキングである。

それから、わたしの心の中は地獄だった。どちらかの招待を断らなければならぬ。しかも、いったん受けた招待を断るのである。誘われたときに断るよりも何倍もご機嫌とが必要である。何よりもAさん、Bさんの両方に「行く。」と返事したことがばれたらどうしよう。「どっちの誕生日会に来るんだ。」と二人に責め立てられたらと、のどのあたりが酸っぱいような、苦いような不快な何かがかみ上げてる、そんな思いを経験した。結局、二人には母から熱が出て行くことができないと告げてもらった。

どうして断れないのだろうか。理由は簡単だ。人から嫌われるのが怖いからである。実際、自己主張をして嫌われた経験はないのに、自分を主張した

ら嫌われると、わたしはわたしの心にそう刷りこんできたようである。

この曖昧模糊としてはっきりしない性格のために、どれだけ苦労したかわからない。普通の人にとっては簡単なこと、先に約束した方を優先してあとのものものを断る、こんなにも簡単なことができなかった。おそらく、相手を思いやる気持ちは実は自分を可愛がる気持ちであった。

五年後、十年後、『人間失格』を読んで、今感じている妙な居心地の悪さを、どう思い出すのだろうか。

『人間失格』がわたしの未来を予言した話であったと、ますます葉蔵に近づいてしまうことへの焦燥にも似た気持ちになるのだろうか。それとも、葉蔵に投影しながらこの本を読んでいたわたしを笑うことができるようになったらどうか。まだ先のことはわからないが、少なくともこの本はわたしを見つめ直す良い機会となった。



太宰治

人間失格

『人間失格』 角川文庫



秋の読書週間

～本との出会いを楽しもう!～

平成29年11月14日(火)～24日(金)

一人ひとりの“伝えたい思い”を言葉にして掲示しました。

短編集だからとても読みやすく、最後の一文を読むまで展開がわからない所が読んでいてとてもおもしろい。
『幸福な生活』 百田尚樹

あきらめないということについてチアダンを通してわかる。そして仲間と協力し夢を叶えるすばらしさに感動。
『チアダン』 みうらかれん

普段本気になれない人でも、本気になることのたのしさを知ることができる。
『きのう、火星に行った』 笹生陽子

自分の人生について考えさせられる本です。
『命売ります』 三島由紀夫

人の「生」と「死」について考えさせられる本です。
『その日のまえに』 重松清

ラブストーリーではなく
“傑作ミステリー”
『イニシエーション・ラブ』 乾くるみ

自分を変えるのに頭も根拠も希望もいらない?
人間性を変えるヒントが書かれている。
『ポジティブ・チャレンジ』 DaiGo

人々の死に触れた物語です。
生きることの難しさを学びました。
『天国旅行』 三浦しをん



このままでいいのかなって悩んでいる人の背中を押してくれる。そんな本です。
『ニンジンより大切なもの』 ボリス・フォン・スメルチェック

何も考えず読んでほしい。
『舞姫』 森鷗外

自分の学校生活の過ごし方を考えさせられました。
『雨の降る日は学校に行かない』 相沢沙呼

心がえぐられそうになりました。
『秒速5センチメートル』 新海誠

読んだら頭の中に音楽が流れ出す。
「言葉」という「音楽」。
『蜜蜂と遠雷』 恩田陸

この本を読むと自分も何かに
チャレンジしたい気持ちになります!!
『三匹のおっさん』 有川浩

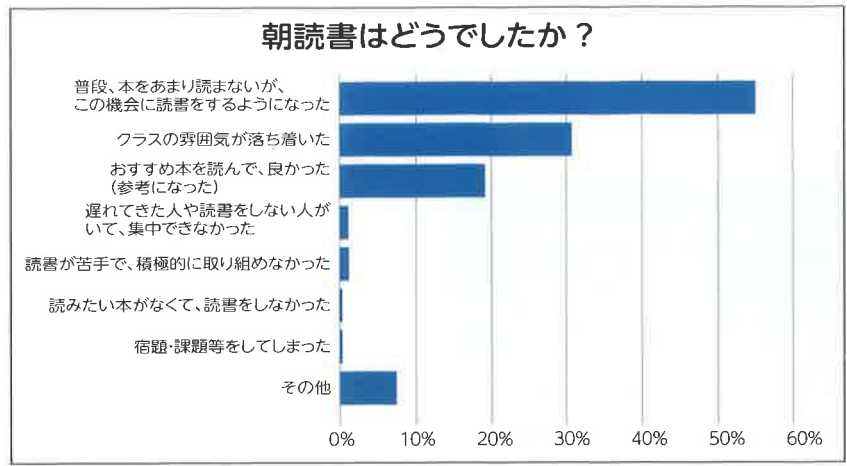
文章は難解なものではなく
あそび友だちのようなものだからである。
『藤本義一の文章教室』 藤本義一

清少納言の生活って「こんな感じ」だったんだ。
『はなとゆめ』 冲方丁





朝読書



読書アンケート



先生方のおすすめ本



東野圭吾、有川浩、新海誠、湊かなえ、金沢伸明、富安陽子、浅葉なつ、あさのあつこ、十三湊、上橋菜穂子、山田悠介、米澤穂信、友麻碧、知念実希人、宮部みゆき、中山七里、坂木司、伊坂幸太郎、重松清、ピース又吉、住野よる、加藤シゲアキ、JKローリング、乙一、三浦しをん、ミヒヤエル・エンデ

好きな作家

あだち充、石田スイ、槇ヨウコ、岸本さん、水波さん、ツジトモ、手塚治虫、荒川弘、天野明、古館春一、ムサヲ、空知英秋、マキノ、鎌池、小原、はらゆたか、大高忍、鳥山アキラ、尾田栄一郎、真島ヒロ、CLAMP、さくらももこ

好きな漫画家

輝く姿を見て

二年 市川 桃子

私は今回初めてオペレッタを鑑賞した。劇が始まる前にとっても綺麗な音楽が流れた。よく見ると目の前で生演奏をしていたのだ。私はとても驚いた。配られた冊子に「指揮」と書かれていたので疑問に思ったが、理解できた。素晴らしい演奏から劇に入り、豪華な衣装を身にまとう方々が登場する。

ここで再び驚いたことがある。マイクを使っていないことだ。のびのびとして透き通るような素晴らしい歌声が響き渡り、会場にいる全員を魅了した。張りのある声とはきはきした口調で演技をされていたので、真ん中の席でも聞きやすかった。配置やセリフ、動き、歌など覚えることが山ほどあるというのに、完璧にこなしている姿を見てかつこいいと思った。

自信に満ちあふれた姿を見て、自分が輝くようなものを見つけたいと強く思った。オペレッタについて正直あまり興味が湧かなかったが、今回鑑賞させていだきとてもおもしろかった。また鑑賞したい。



日時 平成29年10月27日(金)
場所 磐田市民文化会館
演目 オペレッタ「こうもり」
出演 (有)アーツ・カンパニー

自分とは『何者』か

図書委員長 上江洲 那美

私は幼稚園、小学校の頃はどこへ行くにも本を持っていき、暇さえあれば読書をしているため、周りの声が聞こえず母に注意されていました。しかし、高校生になってからは趣味が増え、勉強や部活動に追われ、本を読む時間が減ってしまいました。

最近私が衝撃を受けた本は、朝井リョウ氏の『何者』です。私は初め大学生が就職活動に励む物語だと思っていました。しかし、この本はツイッター上の顔と現実の顔とのギャップを描いた物語で、自分とは何かを考

えさせられました。私もそうですが、みなさんも外での顔と家での顔は違うと思います。この本を読んで、人は様々な顔を持ち、それらを使い分けて生活しているのだと思いました。このように本は私に衝撃や新たな考えを感じさせてくれます。

読書は私にとって癒やしでもあります。高校生活は忙しいですが、本に触れる機会を増やし、ジャンルにとらわれることなく多くの本に出会いたいです。

編集後記

『良き書物を読むことは、過去の最も優れた人達と会話をかわすようなものである』という言葉があります。本は、みなさんを出会えるはずのない人や、なかなか会えない人と出会わせてくれますし、行くことのできない世界、なかなか行けない世界に連れて行つてくれます。多くの出会いを与えてくれるのが本だと思えます。出会いを探しに、ぜひ図書室に来てください。

